

# G-Space 液状化指標のレポート

2021年2月24日

調査対象地（住所）：東京都渋谷区

（北緯：35度 40分 41.92秒 東経：139度 42分 21.87秒）

## 標高メッシュ + 液状化履歴



## 土地条件・治水地形分類図

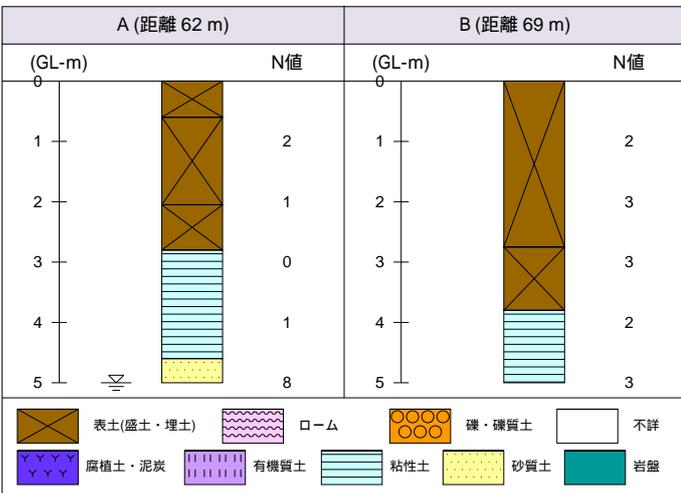


## 地形地質の概要

土地条件区分 1	人工地形/盛土地・埋立地		
産総研地質区分 2	後期更新世-完新世(H)の海成または非海成堆積岩類		
土地利用区分 3	道路用地(1994年)		
治水地形分類区分 4	-		
表層地盤-微地形区分 5	ローム台地		
標高 6	25.8 m		
傾斜角 7	1°未滿	傾斜方位 7	平坦

出典： 1 国土地理院-数値地図25000（土地条件）H25発行版  
 2 産業技術総合研究所-1/20万シームレス地質図 3 国土地理院-数値地図5000（土地利用）  
 4 国土地理院-1/25,000治水地形分類図 5 防災科学技術研究所-I-SHIS地震ハザードステーション  
 6 国土地理院-地院標高API(5m,10mメッシュ標高) 7 国土地理院-基礎地図情報(10mメッシュ標高)  
 この図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図、2万5千分1土地条件図、数値地図25000(土地条件)、数値地図5000(土地利用)及び基礎地図情報を使用した。(承認番号 平28情使、第373-7号)

## 周辺ボーリング



半径250m以内、同一地形区分（土地条件図・治水地形分類図を基に山地・斜面、台地、低地に区分）のボーリングデータ（最大2本、深度5mまで）を表示しています。  
 土地条件図、治水地形分類図がないエリアは、半径250m以内のボーリングデータを表示しています。  
 ボーリングデータの詳細はG-Spaceサイトでご確認下さい。

本レポートは液状化の判定をするものではなく、G-Spaceデータベースの中から液状化判定において役立つ情報を集約したものです。簡易判定の参考として下さい。  
 本レポートの変更・加工・複製・販売を禁じます。（本レポートを報告書の一部に使用する等の2次利用を禁じます）  
 本レポートをご利用になったことにより生じるいかなる損害についても、弊社は一切責任を負いません。

## 位置図



## 旧版地形図



## 地形区分による液状化の可能性

非常に大きい

「土地条件図の数値データを使用した簡便な災害危険性評価手法」（国土地理院）に準じ、土地条件図を基に作成しています。  
 判定区分（非常に大きい・大きい・小さい・なし・評価範囲外）

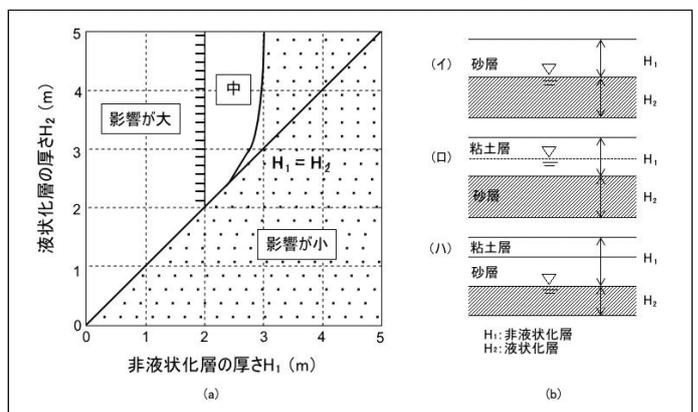
【評価基データは、最大30m程度の位置ずれを含みます】  
 評価の基となっている土地条件図・治水地形分類図は、国土地理院25,000分の1地形図をベースに作成されており、位置精度として最大30m程度までの誤差が許容されています。したがって、クリックされた地点の評価結果は、土地条件区分等の位置ずれにより実際と異なる場合もあります。

【評価基データは、古い情報を含んでいます】  
 評価の基となっている土地条件図・治水地形分類図は、昭和50年代～平成10年代にわたってさまざまな地域で作成されたものが混在しています。したがって、作成された後の開発、あるいは被災地等で、地形、土地条件、河川構造物、周辺建物等が変化している場合もあります。

【地形分類だけからの評価では最終判断はできません】  
 本レポートは、あくまでも地形要素から危険度を評価をしています。下水道の整備状況、樋門（堤防に取り付けられている放流用の水門等）の位置等、地形以外の要因で災害の状況が変わることも考えられます。

【その他の注意点】  
 本レポートでは、人工地形（盛土、埋土等）の評価に当たって、元々の地形（原地形）は考慮していません。実際には同じ「盛土」であっても、谷や旧河道を埋めた盛土や、台地上の盛土等により、危険度は異なります。

## ボーリングデータ、地下水位による液状化の可能性（下図を参照して下さい）



液状化の影響が地表面に及ぶ程度の判定（地表面水平加速度値 200cm/s<sup>2</sup> 相当）  
 （出典：小規模建築物基礎設計指針、日本建築学会、2008年）